

卷之三

善曰全六拾目殘拾武五毛緜記五八

本尼斗武井入三百六十日儀擣茶三年走井久合代食而尼捨入金
三步武茶娘を名にナセ七至令を又ニ武儀家がへうてモ義
毛石の代銀を向

善曰今又拾八枚少一束又拾六枚

御曰猪木 三井を官軍にて割士官は三百六
非久合を武井にて割士官は十日後を加へて又割士官は
石内百軍千人と三正月武井割士官は
内八百七十人又割士官は
余取戻すとて根毛支配を割士官は
代根毛支配本武井割士官は
又武井をうけ毛石にて毛石代根毛をうけ
案毛石代根毛をうけ

不知報を以て分の金而六文と報三文又か半分の錢七而十八是
支金を或の銀小錢を幾文の銀ひ又拾え文をかか報を以て
を同 言曰拾玉貫七百武拾七文

御日末全百六
支又六十毛をうけ三友
又支毛を加へ又毛足を塞ゆて残百
十六
支内而六
支又剰余六百九
支又そて剰残又代報八毛
支又残七百十
支又そとを信うて恨みあり

銀七百拾八文の代^{シテ}又金八两と錢^{クイ}金拾八文又之出内引^{ウチノハタキ}金
をあゆう^{シテ}毛を度^メ其代^{シテ}又錢六文又と銀八文又^{シテ}又^{シテ}
毛^{シテ}又^{シテ}費又^{シテ}代銀を向

善曰金土の捨毛を及 猪九多武

術曰先又六文石又八文者ハをうけ先又石半六石又六半
文加へ先又狼毛七百十の内右四十六引余六百半を先又三
百て割残毛代狼九又六者をうけ五十五又八文又ハ半と加
へ金土代狼九又

○第三

善合に又の物と合入又の物と合七又のものと猪百
文と合教多法又嘗外教を用

善曰六合兔

術曰又と又と七又と合十六法又て猪又六百とうけ
法とて割九又外教多もとよりれい合

末毛石代狼に捨因大豆毛石代狼又捨因末大豆外教合

武捨又石代狼多法又て狼毛を用

善曰又而六捨因兔

術曰狼毛を算又て割狼毛又末又合狼毛を又とて割
狼毛又大豆外此毛末又合を加へ又合法又て外教又石
武を割九又狼毛又外教と合せ法又毛毛

斗を割九又狼毛又外教と合せ法又毛毛

一つ毛又の物と二又のりのと二つ毛又の物と二つ毛又の

物とを残又百七捨又と物教等分又嘗其教を用

善曰武而武捨兔

術曰三又を四又と割又毛毛と二又割又毛毛を四又より
又分一又代残毛又合外教又法又て又又六百又とうけ又と加
又毛

增補改正ノ再校正算証大全

禹校改算計大全

卷之二

又西へ
十六を案みて刻むる解説の事

塔を築く人數三十六百七拾二人已經分出民夫已而石多又
有石多又六百石多三十六石高又無ト人數出方と同

卷之二

上毛締又五百十萬石毛締又五百石下毛締又六百石又十萬
三人にて全武百人拾ぬよ嘗て内を人にて出でて人八拾ぬ出で
素人七拾ぬ出でて人全又五百石毛締の分をと間

上毛綿
中毛綿
下毛綿

言曰 八拾爻 三百六十八爻 三百八十四爻 又三百六十八爻
七拾爻 三百四十二爻 三百三十六爻 又三百三十六爻

ハツムツラカタニミタリ
まつま一日耘バ八献一日耕バ三献一日耨バ六献ナリ一ま

增補改正古今考略

詩大全

卷之三

よて耘耕釋一日ほども畠を回也とて畠三十歩

君曰烹猷十八步

御曰一日をハ又剝毛献勅る日の分王分一
日と獻毛を剝一獻勅アマサシ
る日の分ミカシ一
日を獻アマサシそ剝一獻勅アマサシく
日内の分ミカシ三合ミカシ合合
毛を獻アマサシ不
剝日アマサシの分アマサシ法アマサシアマサシ
毛を獻アマサシ不
剝日アマサシの分アマサシ法アマサシアマサシ

大豆三石三拾石又稻三石三拾石又鹽半斗又銀面三拾八文
又味增を賣る大豆三石又稻半斗又鹽三升合せ
ナム若外教と同

吾曰大至毛石八年
精二石七年
治石年又六

私を被を封十に人モレ銀拾八枚又備内八人ハ三里引て上る
内九人ハ三里引くあぐる城ノ七人ハ八里引て上るる能
又應トシテ出銀を向

三里八人合 三里九人合 六里
五里九人合 六里八人合 八里

御田三里又八人をうけ二十里又里又九人とうけ五里八里又七人
をうけ五里
をうけ五里これよ四十里とと加へ百六十里と法二千法うへて限十八を刻一里
差人分差人四法うへて二十里又うけ三里八人分二十里又

庚辰医算記大全

タケヌ里九人分ナリ
六里

五十一

木を石を土を墨をか乃
船便早て武里又里八里の三石を
九百九十九石積登り三石の船便等がみて
積出不取扱

賃銀而到拾枚以
八里武而足十石
八里六百石

地元を離れて三石の古と名号り而洋町に丁六而洋町に丁八而洋町七丁なり七十人を三方へ送り去洋町に組は
應する人數の離と同

口而译石氏丁
而八十人

八百海乃七丁

御曰已而译ニス丁とうケミナ
六而译ニ丁とうケミナ八而译
ニ士丁をうけスナ六丁これより二十丁と合て法ニテ十人を剃而
译ニ丁ニ士人を剃ア之因法ニテ
丁とうケミナ六丁ミナ二丁ミナ六丁ミナ二丁ミナ

穿地去一丈而七十六坪あり毛とスレ面を除き通三丁
六百人通ニ丁八百人道七丁八百尺十人乃九丁八百十人合
十尺丁武子而人名前合乃組人數ニ應じて大坪段方を同

三丁六石人

に而十译

八石人

三而三十八译

七丁八石人

九石人

而八十译

七丁九石人

三而七译

御曰二百人を三十人を別人八百人と又二十人を別
人と七十人を割八百八十人と九丁又割九人武百人と十
人を又九十人百六十人武百人を加へ七百人を又百
十六译を割す丁を人より武百人より百六十人より
け百六十人より百八十人より百六十人より百
四十人より百八十人より百八十人より百八十人より
四十人より百八十人より百八十人より百八十人より

○第12

銀に支え百目と上り二天へ配り下り内二割以上配る銀を同

善曰上武費入百目 下武費同

御曰とを以て百目これより内武割のハとくげ外
法よりて銀を割すを割工銀をうき毛みをうけ下銀
又目下と名けてこれを内武割のハとくげ外銀の百目
法よりて銀を割下銀をうき毛みをうそ割工銀
下をうきうそとあるひまつて本割で本金を支え法より
銀をうきうそとあるひまつて本割をうき下銀をう

銀入貰入百目拾目を上り下三人より配とふ中ハ内武割が中より下
三外武割が上り下配銀を同

善曰 下を貰入百目

御曰下と外武割の二とくげ中と内武割の
外武割が上り下配銀を同

九
卷之三

王水印合言

銀入賀三百八拾武文と二中下三級（度役）十二人中三人下十八人
上主人より中主人ハ外武別^レサ中主人より下主人ハ外武別^レサ
上中下主人每の報と同

王夫人而十六矣
牛夫人而八十五矣

御曰下を人をうけとる外武割の二をうけずと人と
外武割の二をうけとる人と十人をうち十二人をうけ
三入をうけ三十六下の百四十人をうけ武十八人中の石武
銀八十八人と割下一人の銀二十六人をうけ三十六人合八十八人法よりて
銀八十八人と割下一人の銀二十六人をうけ三十六人合八十八人法よりて
三分り一うて硃る銀を向

善曰 工主貫入而固 中七而又拾固 下卦而又拾固
初曰下と後文而云三とつけ申後文三倍申して上後文六各合目主法は
而固

銀六貫九百圓を三人より祝ひ上り申へ候て又拾取少半か下り而向
づ死報を胸

上卦實又而目 中卦實我而人捨
下卦實而人捨

御曰上中乃
差十枚 七十
日と合目と銀六
百文

增補正統

尹文已集言六全

十一
五

内石一
内同者下の報をう
解上中の差を百八十円と仰せられ上と差べて下
の差三百六十円をうき下りとござりし處三ヶ

銀を貰ひ拾ふ三ヶ月を起るゝより中へ内減割五市分十六拾月此
家記銀を潤

善曰上口を又拾候中三百六拾回下三百回
御曰上と取ふさん内訌割のへどうり中三百六回下口へ各合計三百六
八十回十回各合計三百六

法にて狼主共
内幸と計下狼主より解うのすと八十四よりが狼主のそ
六十より石原を下りて銀主の半身を加る

銀石ハ拾セぬスガトスハ又配モ一の銀ト信フテニシ渡レ一の銀
を三ナビヨリテニシ渡レ一の銀を四ナビヨリテニシ渡レ一の銀
スナビヨリテニシ渡レ一方を回

一拾外女外女
二武搭又女

又一指掌丸

一齋三十四拾三枚
一齋四十五拾三枚
一齋六十五拾三枚

御曰又番之役外割三番而三番之役又外割三番

二番の銀も十枚毛百石三枚合四十石法一石で二番
三番の差武十又三枚合七十石二番の差七十石又三枚合四十石法一石
と銀七百石の内七十石余六百石を法一石で割又番の銀之外二割又合增
に番の銀三十石を加三十石又番の銀之三枚合三十石を
番の銀三十石又番の差三十石又番の三枚合三十石を加三十石又番の三枚合三十石を
番の銀三十石又番の差三十石又番の三枚合三十石を加三十石又番の三枚合三十石を
又石五百石小豆五百石を表五百石ハ石五百石が各石教を同

善曰
大豆八十石
大豆六十石
小豆十七石
麦仁十九石

御白拾武石の内五引七石引石奉り小豆の^{五引}七石引石奉り小豆の^{七石引石}の内
引石奉り小豆の内五引七石引石奉り小豆の^{五引}七石引石^{の内}
引石奉り小豆の内^{五引}七石引石^{の内}
引石奉り小豆の内五引七石引石奉り小豆の^{五引}七石引石^{の内}
引石奉り小豆の内五引七石引石奉り小豆の^{五引}七石引石^{の内}

締六行中締六行下締足行代銀合三拾五分上中行代
子中行代銀四分五厘中行代銀合下中行代銀三
生中行代銀と同

八分六合十八口そ割上報之内に引中報之内
ケ四合合引口そ割上報之内に引中報之内

大工妻組一報百八拾七枚又登報屋主組一報百四拾見内一組
銀九拾六枚漬ろ大工妻組人ふ家報屋主組人内割引が家報屋主組
人より同雇主へ内割引が人數合に十未金合一人赤銀と同

善曰 大工拾武枚又登報屋主組

同用八枚

御曰大工の報百八合内割引の金をうけ百枚又登報屋の銀百枚又登報屋
内割引の金をうけ百枚又登報屋の銀百枚又登報屋の銀百枚又登報屋の銀百枚
妻人妻の報百枚又登報屋の銀百枚又登報屋の銀百枚又登報屋の銀百枚又登報屋の銀百枚
橋入用銀又表に面へ捨て金を産東又町西三國家ハ間妻又内二割
完が酒の町妻又内妻又アマガト一酒酒又アマヨニコ町
金の出銀を同

ス丁目 三百六十八枚六十六枚原 丁目 一百六十六枚八枚

言 三丁目 八百七十六枚 金丁目 七百武拾枚

东 信 九百目 西 信 九百枚 二丁目 八百拾枚

日 三十目 七百武拾九枚

御曰东信を内二三十の金をうけ武附因又金をうけ三丁目
又ハをうけ丁目又金をうけ又丁目又金をうけ又西信と内金
割の金をうけ又丁目又金をうけ三丁目又金をうけ又合又金をうけ又法
ヤて銀高又金をうけ又金をうけ又金をうけ又金をうけ又
又ハをうけ又三の金をうけ又金をうけ又金をうけ又金をうけ又
丁の銀又西信又金をうけ又金の銀又金をうけ又金の銀又

上米至石代銀又拾固下米至石代銀已拾多代銀倉に費用上
米石うち下米石外外多うがと下石教を同

苦曰上米已十八石 下米已十石

御曰下米と外二三うの一をうけ上米より上米の外をう
け下米石代銀と加へてを法すてを割下米石うち
これより外二三うの一をうけ上米石うち

新米至石代銀三拾五石古米至石代銀已拾固代銀食立を拾
固新米石三分之一古米石と等一新古石教を同

苦曰新米に拾入石 古米拾又石

御曰古米と仮三をうけ新米より新米の三石をうけ六石又古米
米至石代銀に拾固米至石代銀拾八石古石の代銀食立を費有
三拾石古米の銀うち米の銀外多うがと本米石教と同

苦曰米拾石八斗又外米三拾石

御曰麦の銀外をもうの一をうけ米の銀石多色又石を加へ
外法すてを費石を割麦の銀又色又をうけ石多色米の銀之
米至石代銀又て割麦の石穀之麦の銀又石代銀又割麦石入
上米至石に拾多下米至石三拾石代銀食立費已而固上銀三
分之一下銀と等しと下石教を同

苦曰上而式拾石 下又拾石

御曰米の銀石又上米の銀石合目そ器を割下米の銀
三をうけ石又上米銀うち上銀又割上石之下の銀又割麦石入

大和正直
升本日真言力全

米麦石に拾六多麦麦石代拾入多石教合而記拾武石本麦代銀等
かよして米麦石教を同

善曰米入拾石 麦九拾武石

御曰合米百半
外石又米の八十
をうけ六百
八石

三十
武文 実子にて米麦麦石の代銀合七十
麦石之毛と百半の内そ一余米石あつ

新米麦石三拾八又右米麦石に拾武文

石教合六十又石新米代銀合古米代銀
三百九拾又九
新古石教を同

善曰新米麦石に拾石右米武拾八石

御曰上六拾八石又新米の三
百八十又
實子にて新古石代銀合七十
刻古米又三
内三十石
三石余

米三百武拾石麦三百石代銀合武拾武貫
而多米麦石代銀分麦
麦石代銀又内武割
米麦麦石代銀を同

善曰米代拾又 麦三拾武文

御曰麦三百石又内二刻の、きうけ米
三十石
又米三百
十石
を加
又石
十石
を割米

そ石代銀なり毛又八
をうけ麦麦石代銀あつ

米麦石三拾八又大豆麦麦石三拾武石教
合五百石代銀合拾七貫武石本大

豆石教を同

善曰米武石大豆三百石

未石	六百石	新米石	六十又石
未代銀	三十石	新米代銀	三十石
未石	六百石	新米石	六十又石
未代銀	三十石	新米代銀	三十石
未石	六百石	新米石	六十又石

未石	六百石	新米石	六十又石
未代銀	三十石	新米代銀	三十石
未石	六百石	新米石	六十又石
未代銀	三十石	新米代銀	三十石
未石	六百石	新米石	六十又石

御日本の三斗又八升をうけ十九内十七モリ余モリ 実ふて木の三升
内大豆の三升を引余六升とて實を刻大豆石又八升内三升とて引木石す
木八升又十石代銀が麦又百石に拾石代
銀ハ武拾又麦武百石目めし木麦石代銀
麦石代銀ハ武拾又麦又百石に拾石代
代銀を問

米八升又十石	麦又百石
麦又百石	代銀を問
代銀を問	武百石
武百石	拾麦八升

善曰木に拾又麦武拾又麦

御曰麦五升又二升をうけ十八升を外十八升の内三升を引余十四升又六升にて
八升の内八升引余三升又二升とて刻木石代なりと引麦又木代なり

大豆三升拾武又小豆三升石武拾八升石教合之拾木石又半小豆
内代銀が大豆の代銀ハ外ニ刻後大豆小豆石教を問

善曰大豆三升木石又斗 小豆三拾石

御曰小豆石代銀ハ又外外の二をうけ又三升を大豆の三升とて刻大豆
木石小豆石を加へ又木と法すて石又斗を刻小豆石又木をうけ大豆乃
石す
木石小豆石の銀が大豆三升の銀ハ外ニ刻まつて木石教合之拾木石教

木石又木石又石代銀合拾三升又木石教合之拾木石教合之拾木石
木大豆木石の代銀と問

善曰木に拾又麦 大豆三拾武又

御曰木石又木石をうけ又三升を加へ又はして武百石又百石
石加又十石と刻木石代銀す
木代銀三拾八升又百石因木石教合之拾木石教合之拾木石
代銀を三分の二よりて麦石代銀と答へ木麦石の代銀と問

言曰宋玉石記拾八友 麦玉石拾六友

御日麦代銀十九英
武昌文又三五をうけ八十七英
六百目又末代銀三十金と加
二万四千目又武
子石と刻米石代銀三万
七千目又三五そ割麦石の代銀三万
七千目

第六

宋三代銀ニ至る年代銀と等分なり宋末石代銀全麥主之石代銀
古拾又文少^{シテ}宋麦主之石代銀を同

善曰未已拾友 夏卦拾又友

奉手代銀と麦石代銀と銅錢と米六斗八升拾友二升走斗又升多
一束麦石石乃代銀と同

若曰末記捨同
夏糾捨又為

御曰夷石の内米石引余石をへてそ割多きの根タ之通寔に
御事公の事の往々くも

石井家五代の通じ
石井家五代の通じ

米麦石代銀分麥麦石代銀ハ拾八枚少ヌ米麦麦石代銀を同

善曰東北拾貳久
麥三拾貳

御曰末代銀六文の内麦代銀二千九百三十文余文一文ナニシテノモ割引五分
ハツナリ法ナリテ六文を割末石代銀二千九百三十文引麦石代銀ナリ

銀を貰ひ百名を上六人下十又八人又波と又上至人下十又八人の銀を合
九而又拾及工下波方乃銀もを同

善曰上六人三百同下十五人九百同

善曰鴟走反人也 爰武反七方

御日鴨^ハを金^ル又割金^ミ又付鴨^モ金^ル又け鴨^ミ鴨^ハ
加^ム法^アテ^ト主^トと割鴨^モ代^シ金^ミをうけ金^ミ代^シ金^ミ
銀九貫^タを二人^ハ傷^ミ人^ハ利^ク割^ス分^ミ人^ハ利^ク割^ス分^ミ利^ク銀^タ
シ^テ給^ク元^ハ銀^タ回^ス

言曰毛刺卦分以貫同毛刺入分以貫同

刻スミ之れ貫罔の内まで引に貫罔をつ

末又石代銀と麦主石代銀と合計百三拾圓麥又石代銀と末又
石代銀と合計九拾九圓麥主石代銀を回

善曰 米に拾タ
麦三拾タ
御曰 米五石又百九十九石又十石をうけ九百八十八石又八石ハ米五石又百九十九石又十石と麦二十石代銀之内二石三斗余
七百三
十六ハ麥三十石代銀人七百三と二千又割麦三十石代銀之武百三の内二千又割麦そ
々を米又石うそ割麦三十石代銀ナシ

本拾毛石代銀之麥七石既年代銀之合首又拾多益又石既年代
銀之麥六石三斗代銀之多益之本麥毛石代銀之固

善曰 米三拾七石八斗 麦三拾二石

利日未石又麦六石をうけ米天石三石を割米土代麦十三石
二年又麦七石と加へ
手と法にて合銀六石割支麦代銀一石とうけ天石又割米土代銀五石
石代銀と之の外之未麦大至石之代銀を同

善曰本尼拾女妻三拾女大夏武拾八女

御曰米石より麦とうけ米石より刻米石の麦三十大豆三石より麦石をかけ大豆石より刻大豆三十代の麦二十石毛豆石を加へ七十七石麦を加へ六十六石法よりて合銀五十七石三十石と刻麦石代銀之石より刻米石代銀之麦代銀よりて合銀三十石三十石

第七

別の代銀を回

言曰毛又久六卦爻不占

御曰左之を正すと一引右とうべト
二ツ又割スル毛スル毛スル
二十ニ加スル三十端スル毛スル毛スル
又かく又割スル毛スル毛スル
二十二加スル三十端スル毛スル毛スル

給銀を死るよ百人たり工達人よ百人死かま人海よ又かマサ一
百人よ海を布の銀を回

若曰七貫又百卦拾八爻